

京 都 市 立 芸 術 大 学
移 転 整 備 基 本 計 画

京都市

移転整備基本計画の策定に当たって



京都市長

門川 大作

今から150年前、京都は明治維新で都の地位を失い、人口が3分の2となる都市存亡の危機に直面しました。

そんな中でも、文化芸術を「人づくり」「まちづくり」の柱に据えようとした先人たちの熱意により、明治13年、日本初の画学校として設立されたのが京都市立芸術大学です。以来、今日まで、市民の皆様に温かく見守られながら、時代を先導する優れた芸術家を数多く輩出し、京都の、さらには日本の文化芸術を支えてきました。

その京都芸大が、学びと創造の場を京都駅東部の崇仁地域へと移します。

この地域は、年間1億人もの人々が利用される京都の玄関口・京都駅と、長い歴史に育まれた豊かな文化が息づく東山地域を結ぶエリア。新たな賑わいと文化交流の場となり得る大きな可能性を秘めています。

この度の移転により、国や人種、宗教などあらゆる垣根を越えた文化芸術による交流が芽生え、新たな価値や文化が創造される。そして、この地域が「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンとして、世界に文化を発信する拠点となる。私はそう確信しています。

今後、本計画に基づき、京都芸大が世界に冠たる芸術大学として50年後、100年後の未来に羽ばたけるよう全力を尽くしてまいります。皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

移転整備に向けて

芸術系の大学として全国でもっとも古い歴史をもつ京都市立芸術大学は、設立当初より、日本の伝統芸術を継承・刷新するとともに、日本の近現代芸術の屋台骨を支え、世界的にも高く評価されるアーティストたちを数多く世に送りだしてきました。いいかえれば、京都芸大は、京都市のみならず、日本の芸術文化のきわめて重要な火床の一つ、世界への発信拠点の一つでありつづけてきました。それが可能であったのは、濃密で質の高い教育環境（少数教育）を、本学が京都市・京都市民の支えの上にこれまで維持してこれたからです。



京都市立芸術大学学長

齋田清

伝統の芸術・宗教文化や独自の生活風習が今も息づく京都のまちは、まちとして世界にじかにつながる力量をもっている稀な都市の一つです。その意味では、京都の産業や経済の発展も、「文化芸術都市」としての京都の維持・発展と切り離せません。そしてそのような都市でありつづけられるかどうかは、一にして、次の時代に文化芸術を担う創造的人材をきちんと育てられるかどうかにかかっています。

京都市立芸術大学は、今回の移転によって、崇仁地区やその周辺の区域が、文化芸術都市・京都の、いかなる苦境にあっても絶えることのない「埋み火」の熱る場所になることを望んでいます。そしてそれとともに、この地域の地力、ひいてはまちとしての京都市の地力を、芸術をとおしてさらに力強いものにしてゆくことに貢献したいと願っています。

目次

I 移転整備に向けて

1	はじめに	1
2	移転整備とまちづくり	3
3	移転整備の基本理念及び施設整備方針	6
4	京都芸大の移転に関する基本コンセプト	8
5	基本計画の位置付けと今後の進め方	10
6	京都芸大以外の施設について	11

II キャンパス計画

1	キャンパス整備における重点項目	12
2	整備内容	14
3	キャンパス配置の考え方	18
4	配置計画	19
5	安心・安全への配慮	22
6	環境への配慮	24
7	景観への配慮	26

III 事業計画

1	本事業に最適な事業手法について	27
2	概算事業費	29
3	事業スケジュール	30

資料編

1	移転整備の経緯	32
2	京都芸大の教育研究施設, 附属施設等	33
3	移転予定地の現況と既存施設について	34
4	法規制概要	37
5	比較検討を行った事業手法について	38
6	事業手法の評価における配慮事項	39
7	京都芸大 施設整備に関する会議等の開催状況	40

